

しちじょうあと みはらしちちく でんえんけいかん
志知城跡と三原志知地区の田園景観



所在地：南あわじ市 志知



志知城跡と田園景観

志知地区には、鎌倉時代に築かれた館跡「志知城跡」があります。

志知城は、鎌倉時代に豪族菅道忠により築かれました。室町時代に菅氏が改名した野口氏は、天正9年（1581）に羽柴秀吉の侵攻で志知城を開城し、淡路島を去りました。その後、志知城に加藤嘉明を配し淡路水軍を束ねた時代もありましたが、文禄4年（1595）加藤嘉明が伊予松前に移り豊臣家の直轄領になったのを機に廃城となりました。

志知城跡は、現在も堀に水をたたえ、三原平野の田園のなか志知地区の歴史と文化を伝えています。

【景観の特徴】

- 自然が作りだす景観
- ✓ 歴史が作りだす景観
- ✓ 生活・文化が作りだす景観
- 新しく作りだす景観

【アクセス】

神戸淡路鳴門自動車道西淡三原ICから県道31号線を南下。車で約10分。



地図出典：国土地理院発行2万5千分の1地形図